

4.5%、注意力低下、頭痛・頭重各4%等。臨床検査値異常としてγ-GTP上昇18.1% (53/293)、GOT上昇4.5% (15/335)、GPT上昇7.7% (26/336)、Al-P上昇5.5% (18/325)、白血球減少3.7% (12/321)等。比較的多いγ-GTP上昇は本剤の肝酵素誘導作用に基づくと考えられる ④非臨床試験 ④毒性 LD<sub>50</sub> (mg/kg)マウス：経口=3750、ラット：経口=4025 ⑤催奇形作用：マウスの妊娠7～12日に375、563、938 mg/kg/日経口投与で、用量に関連し胎仔死亡増加及び外部奇形発生率増加(対照群：9.4%、938 mg/kg/日投与群：51.4%) (日本チバガイギーによる)

## 【製品】

コダパン Kodapan 細粒錠 (小玉)  
テグレットール Tegretol 細粒錠 (日本チバガイギー)  
テレスミン Telesmin 細粒錠 (吉富)  
レキシ Lexin 細粒錠 (藤永一三共)

## 覆罩・充填剤 231

## カルビタル

Calvital (ネオ製薬)

【組成】 パスタ：(末)1g 中水酸化カルシウム785 mg、ヨードホルム200 mg、スルファチアゾール14 mg、グアノフラシン1 mg、(液)1 ml 中塩酸パラブチルアミノ安息香酸ジエチルアミノエチル5 mg、グアノフラシン0.2 mg

【適応】 ①直接歯髄覆罩：う食症第1度及び第2度又はこれに準ずる歯牙硬組織欠損歯で歯質切削中、偶発的に作られた露髄で直接歯髄覆罩を適当と診断された場合 ②生活歯髄切断：急性単純性歯髄炎、又は急性及び慢性化膿性歯髄炎で、根部歯髄が正常な場合又は補綴学上、被患歯髄を除去し、健康部分を保存した方がよいと診断された場合 ③根管充填：抜根根管及び感染根管で根管治療終了後、根管充填を適当と診断された場合

【用法】 粉末と液を約2：1の割合に練和してパスタ状とし、局所に応用 ①直接歯髄覆罩の場合：窩洞を清掃・消毒、乾燥後、歯髄露出面に軽く圧接 ②生活歯髄切断の場合：窩洞内を清掃・消毒、乾燥後、歯髄切断面を軽く圧接 ③根管充填の場合：根管治療終了後、根管内を清掃・消毒、乾燥し適当な根管充填器を用いて充填

【注意】 ①禁忌：本剤又は安息香酸エステル(コカインを除く)系局所麻酔剤に対し過敏症の既往歴のある患者 ②副作用 過敏症：過敏症状が現れた場合には中止する ③妊婦への投与：妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にだけ投与する ④適用上の注意 ⑤適用部位以外に付着した場合には、直ちに拭きとり、水洗する ⑥歯科用にだけ使用する

⑤遮光保存 ⑥規制等：●●●

抗ヒスタミン剤 141  
マレイン酸カルピノキサミン●  
carbinoxamine maleate

【組成】 錠：1%

マレイン酸カルピノキサミンは白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。水又は氷酢酸に極めて溶けやすく、メタノール、エタノール又はクロロホルムに溶けやすく、エーテル又はイソプロピルエーテルにほとんど溶けない。水溶液(1→100)のpHは4.6～5.1。旋光性はない。融点：116～121°

【適応】 皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎、皮膚痒疹症、薬疹)、じんま疹、アレルギー性鼻炎、枯草熱、感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽

【用法】 1回4 mg、1日3～4回(増減)

【注意】 ①一般的注意：眠気を催すことがあるので、投与中の患者には自動車の運転等、危険を伴う機械の操作には従事させないように十分注意する ②禁忌 ③線内障の患者 ④前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者 ⑤副作用 ⑥過敏症：発疹等の過敏症状が現れることがあるので、このような場合には中止する ⑦精神神経系：眠気、また、ときにめまい、頭痛等の症状が現れることがある ⑧消化器：ときに口渇、悪心、胃痛、腹痛等の症状が現れることがある ④妊婦への投与：妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい ⑤相互作用：次の医薬品との併用又はアルコール摂取により、相互に作用を増強することがあるので、このような場合には減量するなど慎重に投与する〔中枢神経抑制剤、MAO阻害剤(抗コリン作用が増強される)〕

【作用】 ①薬効薬理 ②抗ヒスタミン作用 ③モルモット摘出腸管では、マレイン酸クロルフェニラミンと同等、塩酸ジフェンヒドラミンの3.2倍 ④モルモットでは、マレイン酸クロルフェニラミンと同等、塩酸ジフェンヒドラミンの24倍、安全域はマレイン酸クロルフェニラミンの約2倍、塩酸ジフェンヒドラミンの約35倍 ⑤抗セロトニン作用：セロトニンの末梢作用に対する有効な拮抗剤で、各種動物試験(モルモット、ラット、家兎)によるセロトニン作用に対し強い抑制作用(in vitro)、ラット胃潰瘍場にも強い抑制作用(in vivo) ⑥臨床適用 ⑦有効率〔〔〕内やや有効以上〕：348例中66.4%〔85.9%〕で、皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎、皮膚痒疹症、薬疹)89例中56.2%〔70.8%〕、じんま疹53例中79.2%〔90.6%〕、感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽158例中74.7%〔95.6%〕 ⑧副作用：3.4%〔12/348〕に、軽度の口渇、眠気 ③非臨床試験

④毒性 LD<sub>50</sub> (mg/kg) dd系マウス：経口=620、皮下=350、腹腔内=150 ⑤吸収・排泄：雄性モルモット、雌性家兎の血中濃度は、経口投与(70、50 mg/kg)後1時間で最高、24時間後には血中、各臓器内からほとんど消失

## 【製品】

シベロン Cibelon 散 (大正)

精神神経安定剤 117

## カルピプラミン●

carpipramine

【組成】 錠：塩酸カルピプラミンとして

10%相当量のマレイン酸塩

錠：1錠中塩酸カルピプラミン25 mg、50 mg

塩酸カルピプラミン carpipramine hydrochlorideは白色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。ギ酸に極めて溶けやすく、氷酢酸にやや溶けやすく、イソプロピルアミンにやや溶けにくく、水又はエタノールに溶けにくく、クロロホルムに極めて溶けにくく、無水酢酸、アセトン又はエーテルにほとんど溶けない。光によって徐々に着色する。融点：約260°(分解)

マレイン酸カルピプラミン carpipramine maleateは白色～帯微黄白色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。氷酢酸にやや溶けやすく、エタノール又はクロロホルムに極めて溶けにくく、アセトン、エーテル又はイソプロピルアミンにほとんど溶けない。光によって徐々に着色する。融点：約185°(分解)

【適応】 意欲減退、抑うつ、心気を主症状とする慢性精神分裂病

【用法】 他の抗精神病薬の効果が不十分な場合に付加して使用する。塩酸カルピプラミンとして1日75～225 mg、3回に分服(増減)

【注意】 ①一般的注意 ②意欲減退、抑うつ、心気を主症状とする慢性精神分裂病に対して本剤を用いる場合には、他の抗精神病薬で効果が不十分な場合にだけ付加的に使用する ③眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意する ④禁忌 ⑤昏睡状態、循環虚脱状態の患者又はバルブツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者 ⑥本剤に対し過敏症の患者 ⑦精神運動興奮、衝動行為、攻撃性等の認められる患者及び幻覚、妄想等の異常体験が前景に認められる患者(本剤には鎮静作用はないので、ときにこれらの症状が増悪することがある) ⑧慎重投与 ⑨心障害のある患者 ⑩血液障害のある患者 ⑪肝障害のある患者 ⑫小児又は高齢者 ⑬副作用 ⑭循環器：ときに頻脈等の心障害、血圧降下が現れることがあるので、観察を十分に行い、

